

令和2年度認知症地域支援体制推進全国合同セミナーQ&A（令和3年3月19日）

報告テーマ：施策を展開するための推進員と多職種による反活動を結成し、自発的・総合的な取組を力をあわせて推進

報告：千葉市健康福祉局健康福祉部地域包括ケア推進課認知症対策班 梅原 康弘氏 吉田 美穂氏

No	質問	回答
1	推進員が多い地域は、班体制にすることで役割が明確化できることがよくわかりました。吉田さんは、専門職なのでしょうか？	千葉市の事務（福祉）の採用で、社会福祉士の資格を持っています。
2	千葉市吉田様に質問です。聞き洩らしていたら失礼します。千葉市の認知症地域支援推進員は全地域に26年から配置されてますが、そのころから全区、全包括に配置してその時から班活動をしているのでしょうか？	千葉市では、認知症地域支援推進員を平成26年度より地域包括支援センターに配置しています。（包括三職種と兼務）平成26年度は9名でしたが、平成30年度に全地域包括支援センター（30センター）への配置が完了しました。 なお、認知症施策を促進するため、令和2年度より、各地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を兼ねる第2層生活支援コーディネーターを配置しております。 また、班活動は、平成26年度より継続して実施しています。
3	5つの班活動のテーマ（「高齢者見守り班」、「認知症カフェ班」など）はどのように決めたのですか？	班活動のテーマは班活動に参加している推進員と行政の協議により決定しています。
4	班活動のメンバーはいつ集まって活動しているのでしょうか？	4～5月頃に班活動希望のアンケートを行い班を編成後、各班ごとに活動計画を決めています。それぞれの班で活動内容や班活動日数は違いがありますが、基本的には地域包括支援センターの業務時間内に実施しています。方法は集合型やオンライン型、メールでのやりとりなどさまざまです。
5	千葉市吉田さんへ新オレンジが新設されるきっかけとチームオレンジの内容について教えてください。	令和5年までに各市町村にチームオレンジの枠組みを作ることが示され、認知症サポーターステップアップ講座の班員とも話し合い、行政側からチームオレンジ班の新設を提案しました。 現時点ではチームオレンジは結成できていません。 チームオレンジ班の活動内容は、まずチームオレンジの活動で求められていることを調査するために認知症当事者及び家族を対象にニーズ把握調査を90名の方に行いました。その後、ニーズ把握調査の結果を広報誌にまとめるとともに、ニーズ把握に協力して下さった当事者の方に個別に依頼し、本人ミーティングを予定しています。
6	千葉市・吉田様にお伺いします。チームオレンジ班で取り組んだ認知症の方やご家族へのアンケートは90名の方にご協力いただいたとのことですが、質問項目は推進員の皆さんで考えたものなののでしょうか。来年度、同様の取り組みを考えているのですが、アンケート帳票の全容を参考にさせていただくことはできますか？また、アンケート配布にご協力いただいた事業所等の詳細をお伺いできますか？	質問項目は班員の生活支援コーディネーターが活用しているものをもとに、班員で修正、追加し作成しました。もちろん、参考にさせていただいて構いません。メールや電話をいただければ、送付します。 アンケートについては、所属している班員の地域包括支援センターで関わっている方を対象に実施しました。
7	班活動の中で、認知症カフェの運営についてどこまで支援しているのか。どこで開催しているのか。どのように誰が運営しているのか。必要費用はどうしているのか。教えてください。	令和2年度ですと、認知症カフェの再開のため、オンライン導入を検討しているカフェについて、班員がカフェを訪問し、実際にオンライン（Zoom）の使い方等をレクチャーしました。また、定期的に開催している認知症カフェ主催者意見交換会のなかで、各認知症カフェの情報共有の場を設け、各カフェ同士で運営についての情報共有ができるようにしました。 千葉市には認知症カフェが31か所あり、どのように誰が運営しているのかはさまざまです。 「誰が」に関しては、グループホームなどの施設が運営している場合、個人で運営している場合、NPO法人が運営している場合があります。 「どこで」に関しては、現在はコロナ禍で休止していますが、施設内、地域交流スペース、公民館や集会所、団体の事務所などがあります。 「必要経費」については、法人や団体等で負担しているところもあれば、千葉市認知症カフェ設置促進事業補助金を利用しているカフェもあります。

No	質問	回答
8	<p>当市でも認知症サポーターのステップアップ講座を考えていますが、認知症の方へのコミュニケーションの学びについて、施設での研修が難しいかなと思っているところです。認知症カフェでの交流も検討中ですが、講座でのロールプレイングはどのようなテーマで行ったのでしょうか。具体的に教えていただけると幸いです。</p>	<p>千葉市でも認知症サポーターステップアップ講座のなかで施設での研修を検討しましたが、コロナ禍で実現しませんでした。認知症カフェの交流は千葉市も参考にさせていただきます。</p> <p>ロールプレイングのテーマは①あなたの親しみやすさはなんですか？（自分の親しみやすさと相手を感じる親しみやすさを理解してもらうことで自分の強みを知る）②効果的なあいさつをしましょう！（支援者役と認知症役になってもらう。支援者役は講義前半で学んだ認知症の症状を理解した接し方を。認知症役は認知症の方を演じるというよりは、講義前半で学んだ認知症の症状を念頭に認知症の方の気持ちになってもらうことを意識。）③事例会話で聴き上手を体感！（事例の会話のなかで、どのような言葉を返すかを考えてもらう。認知症の人の気持ちになり、どのような言葉を返すことがよいかを意識）④部屋から出てこないA子さんについて、事例を読んでどのような症状か、どのような心理か、どのような声かけ・対応がよいかを考える。以上です。詳しくはご連絡いただければお伝えします。</p>
9	<p>オンラインでの開催の際は、設備等の準備はそれぞれでしているんですか？</p>	<p>認知症カフェのオンライン開催の設備等の準備は認知症カフェの主催団体が準備しています。</p> <p>オンラインで開催している班会議についても班員の所属する地域包括支援センターで準備してもらっています。</p>
10	<p>千葉市さんの認知症カフェ、どのようなことをしているか気になります。</p>	<p>千葉市の認知症カフェでは、茶話会、体操、音楽鑑賞、楽器演奏会、健康チェック、専門職による講演会や相談会などを実施しています。</p>
11	<p>コロナ禍ならではの認知症カフェの特徴、工夫を教えてください</p>	<p>コロナにより認知症カフェの通常通りの開催が難しくなり、参加者に手紙を出したり、参加者からメッセージをもらってメッセージの木を作成して周知したり、訪問や電話による相談を行ったりと、認知症カフェの運営者のみなさんがそれぞれで「つながる」ことを意識して工夫してくださりました。</p>
12	<p>千葉市吉田様へ質問です。包括に警察への連絡が来ることが多くなり、警察との連携を強化したいと考えています。警察との意見交換会を開催するまでに苦労したことはありますか。どのように警察へお声をかけていったのでしょうか。また、意見交換会に参加した方はどのような方々でしょうか。</p>	<p>警察との意見交換会を開催するまでに苦労したことは特にありません。千葉市には5つの警察署があるので、日頃からSOSネットワークで行方不明者の情報共有をしている各警察署の生活安全課に連絡をし、SOSネットワーク担当者会議（意見交換会）に出席を依頼しました。</p> <p>出席してくださった方は生活安全課の係長の方や担当の方です。</p>
13	<p>行方不明事案で市に情報提供がある件数は年間何件くらいでしょうか。</p>	<p>令和元年度実績</p> <p>SOSネットワーク事業利用者（※1）：84件</p> <p>支援対象者情報提供書（※2）：258件</p> <p>※1：行方不明となり、警察署に事業利用の申請をした方で防災放送無線や関係機関への連絡、Twitterや千葉市安全・安心メールの配信を実施するもの</p> <p>※2：警察から行方不明により把握した方について家族の同意が得られた場合に送付されるもの</p>
14	<p>吉田さん、谷口さん、近藤さんに質問です。それぞれ認知症に関する施策を進めていく中で、都道府県のサポートとしてよかったものはありますか。また、都道府県に期待することはありますか。</p>	<p>千葉県主催の認知症地域支援推進員活動報告会が開催され、各市町村の取り組みを知ることができ参考になりました。</p>
15	<p>県の行政に期待することを教えてください。</p>	<p>千葉県主催の認知症地域支援推進員活動報告会が開催され、各市町村の取り組みを知ることができ参考になりました。</p>